

業務部速報



No. 97

発行 23. 3. 23

JR東労組 業務部

JR東労組
申第12号

歴史的な物価高から生活を守り、将来へのモチベーション維持・向上を
実現するための2023年度賃金引き上げ等に関する再申し入れ③

- 組合主張(要旨)
- 会社主張(要旨)

組合員・社員の声を受け止めるべき！

■第3回の交渉以降、6,360件もの組合員・社員の声が中央本部に寄せられ、再申し入れが必要だと判断した。回答に対する組合員・社員の声を受け止めるのか。

- 最大限の回答を受け止めている声がある。このような水準で回答していただいたという評価もある。会社としても回答以降、意見交換など通じて把握も行っている。
- 回答に対する社員の様々な捉え方があるのは否定しない。

①ベアの差は納得できない!!

■なぜ職責により差が生まれるのか。具体的な回答をいただきたい。

- 様々な要素を勘案した中で、会社としてこちらの方法が適当と判断。切り分けて話をするものではない。
- 物価上昇が生活に与える影響も重要な要素であり、職責も重要な要素である。

③定昇カット分を支給すべきだ!!

■定期昇給が2になったことで、組合員・社員に影響が出ている。

- 別途支給したり、遡って支給するものではない。影響があった事実は理解している。そのような要素も勘案した中で、回答をしている。

■カットした分を元に戻したのか。

- カットした認識はない。

■今日まで総額約10万円の定期昇給カットは課題だ

- 厳しい環境の中で、昇給係数2で実施した。なので、課題として考えていない。

■定期昇給カットによって、生涯賃金自体が目減りしている。

- 社員に対する影響があるのは認識している。そのような影響も踏まえて回答している。

■定期昇給カット・初任給特別措置の実施により採用年度の賃金カーブが接近している課題がある。

- 接近するが永続的に続くものではない。それを持って課題と考えていない。

厳しいと言いつつも、会社には支払い能力がある!!

■営業収益はワースト3。純利益・運輸収入はワースト5の中で、JR発足7番目に高い賃上げ水準だ。支払能力はある。

- 支払能力があるかないかではなく、現状を踏まえた中で社員が安心して働くことを鑑みて、かなり踏み込んでいる。

23春闘回答を期末手当抑制の理由にするな!!

■(賃上げを)期末手当の抑制の理由にしてはならない。

- その場の業績の動向、中長期的動向も踏まえて回答する。

②何故、満額回答できないのか!!

■歴史的な物価高に直面している。なぜ満額回答出来なかったのか納得出来ない。

- 物価上昇は、様々な所で影響が出ているのは受け止めている。しっかりと勘案しているつもりである。会社として厳しい状況の中でも、物価上昇等が社員の生活に与える影響を特に鑑みながら、出来得る最大限の回答をしている。

■なぜこの要求満額が実現しないのか。

- 平均で5,000円以上、29年ぶりの水準である。しっかりと踏み込んでかなり高い水準の回答を示している。
- 組合として要求額を決めるのは自由である。何かコメントするつもりはない。

④生活を守るために、生活応援措置を!!

■当面の物価上昇の中でどう生活を守るのか。賞与の削減が、生活苦を高めている。

- 会社として良いものではない。好循環を生み出さなければならぬ。

■交渉でも議論しているが慎重な姿勢という言葉を使っている。回答書の中でも、社員を大切にすることが感じない。社員の生活を守る観点はどうか

- 全く考えていないということはない。幸福の実現を明確に打ち出している。

■回答書にも会社が社員を守る観点はない。社員の切実な訴えに寄り添った回答を示していただきたい。

- 想いを込めて伝えている。物価等が社員の生活に与える影響を加味した中で、決定して示している。

3月14日の回答は、申12号交渉を踏まえて再考すべきだ!!

■我々のこの場の議論を踏まえて、4点の視点を検討していただきたい。

- 先日の回答が最終回答である。再考に応じる考えはない。

-6360件の「声」をぶつけるも要求実現ならず!

組織強化・拡大と
要求実現は両輪だ!
組合員・社員に
申12号報告を!